

Japan
Audio
Society

JAS journal

平成 30 年 7 月 1 日発行
通巻 453 号
発行 日本オーディオ協会

2018
Vol.58 No.4

7

- 連載：「私とオーディオの出会い」 Vol.1
- OTOTEN2018 報告
- 中島平太郎さんを偲ぶ会
- Qualcomm スマートオーディオプラットフォームの紹介
- 【JAS インフォメーション】
 - ※平成 30 年度 通常総会 報告（平成 30 年 6 月 22 日開催）
 - ※平成 30 年度 第 2 回（6 月）理事会 報告

会長 小川 理子

末永 信一

高田 寛太郎

大島 勉



一般社団法人

日本オーディオ協会





(通巻 453 号)

2018 Vol.58 No.4 (7月号)

発行人：小川 理子

一般社団法人 日本オーディオ協会

〒108-0074 東京都港区高輪 3-4-13

電話：03-3448-1206 FAX：03-3448-1207

Internet URL

<http://www.jas-audio.or.jp>

C O N T E N T S

・連載：「私とオーディオの出会い」 Vol.1	会長 小川 理子	P3
・OTOTEN2018 報告	末永 信一	P5
・中島平太郎さんを偲ぶ会	高田 寛太郎	P9
・Qualcomm スマートオーディオプラットフォームの紹介	大島 勉	P25
【JAS インフォメーション】		
・平成30年度 通常総会 報告 (平成30年6月22日開催)		
・平成30年度 第2回 (6月) 理事会 報告		P30

7月号をお届けするにあたって

大変暑い夏が続いておりますが、読者の皆様も熱中症などには十分ご注意ください。また最近、地震や水害など天災が続きましたが、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、6月22日に日本オーディオ協会は平成30年度通常総会を開催し、新しい体制が発足いたしました。新たに就任した小川 理子 新会長から、ご挨拶を兼ねて「私とオーディオの出会い」と題した一文を寄せていただきました。新会長の人となりをご自身の言葉で伝えたいとの意向に沿って、数回の連載でお届けする予定です。

6月16日、17日の二日間「音展」を昨年に続き東京国際フォーラムで開催いたしました。昨年の経験を活かして内容・運営も工夫し、新たなお客様も増やすことができたのではないかと考えております。展示会実行委員長代理の末永氏に「OTOTEN2018 報告」をまとめていただきました。

音声認識技術とオーディオ製品の融合を視点に据え、無線コネクティビティーと音質改善技術など新しいオーディオに対応するプラットフォームの動向について「Qualcomm スマートオーディオプラットフォームの紹介」として、クアルコム CDMA テクノロジーズの大島氏に寄稿いただきました。

昨年12月に元JAS会長の中島 平太郎氏が逝去されました。デジタルオーディオの推進者でCD開発者として大きな足跡を残されたことはご存知の方も多いと思いますが、6月25日に偲ぶ会が催され、200名近い方々が参加されました。世話人代表を務めたNHラボの高田氏に、「中島平太郎さんを偲ぶ会」として会の様子を報告していただきました。

☆☆☆ 編集委員 ☆☆☆

(委員長) 君塚 雅憲 (国立科学博物館)

(委員) 穴澤 健明・稲生 真 ((株) 永田音響設計)・遠藤 真 (NTT エレクトロニクス (株))

大久保 洋幸 (NHK 放送技術研究所)・高松 重治・春井 正徳 (パナソニック (株))・森 芳久

八重口 能孝 (オンキヨー (株))・山内 慎一 ((株) ディーアンドエムホールディングス)

山崎 芳男 (早稲田大学)

【連載：「私とオーディオの出会い」 Vol.1】

一般社団法人日本オーディオ協会 会長 小川 理子

「ご挨拶」

日本オーディオ協会の会長という大役を拝命し、身の引き締まる思いです。業界の大先輩には、あなたの使命である、と激励していただきました。

これから少しの間、私の自己紹介を兼ねて、徒然と、音、オーディオ、音楽に関わることを書かせていただき、連載をさせていただこうと思います。等身大の私を知っていただく機会になれば幸いです。

「私とオーディオの出会い」 Vol.1

私は昭和 30 年代後半の生まれである。

物心ついた時には、家のリビングには、大きなステレオがあり、毎晩のように父がジャズやクラシックのレコードをかけてくれていた。私と二才違いの兄には、たくさんの年上の従兄弟達がいて、祖父母の家に遊びに行っては、流行りの洋楽のレコードのお下がりをよくもらって帰り、家でかけて楽しんだ。

そして、昭和生まれの女子なら、たいていはお稽古ごとになっていたピアノ、私も 3 才からクラシックピアノを始めたが、リビングで聴くレコードから流れてくる音楽を耳で覚えて自己流で弾くのが楽しかった。幼稚園児で父と一緒にスウィングジャズを楽しむおませな女の子だったが、時の流れとともに、歌謡曲から、ポップス、ロック、R&B、フォーク、フュージョン、ハワイアン、レゲエ、映画音楽、など、音楽ならジャンルにとらわれずに、自分の好きな曲をかたっぱしから聴いて育った。

レコードを聴く、という私の中のオーディオの世界に新たな点が加わったのが、自分の演奏をカセットテープに記録してもらった小学低学年のピアノの発表会、父がとてとても大きなテープレコーダーを会場に持ち込んで録音してくれた。たぶん、まだ、市場に出たばかりの機器を、私がヨチヨチしていた頃に父が手に入れたものだったと思うが、演奏がどうこうと言うより、自分の音が残されて再現される、という特別な時空間の感覚を体験した。

兄の中学入学祝いに、両親が、大きな 4 チャンネルステレオを買って、気持ちよく音に包み込まれるという新たなオーディオの体験をしたことも、今懐かしく思い出す。

成人するまでの昭和の時代、友達同士でのレコードの貸し借りや、カセットテープの交換、深夜のラジオ、海辺のカセットデッキ、など、今思えば豊かな、オーディオとのさりげない出会いが日常にあふれていた。

音楽好きが高じて、大学時代に専攻した生体工学で生体リズムを研究し、リズムのもつ本質的な面白さに気づき、自分の個性が活かされる仕事は何だろうと探し求めて出会ったのが、音響の世界だった。

右も左もわからず社会人としてスタートしたのが、当時の松下電器産業(株)音響研究所、ここで私は、いわゆるオーディオ道に目覚めたのである。

この続きは、次回に。。。。



6月に行われたJAS通常総会にて左から経済産業省の津田様、渡辺様、小川 会長

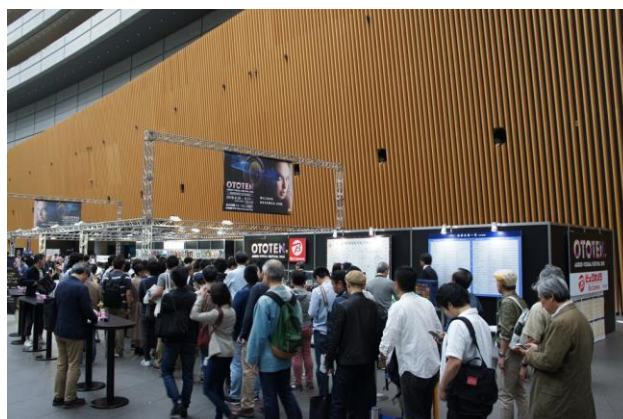
OTOTEN2018 報告

展示会実行委員会 委員長代理

末永 信一

さる6月16日、17日の2日間、有楽町の東京国際フォーラムにて、OTOTEN2018を開催致しました。梅雨時期にも関わらず天候に恵まれ、来場者は17,000人と昨年比30%アップ。大変な盛況に終わることができましたこと、主催者の一人としてお礼申し上げます。ご協力頂きました出展者の皆様、イベント運営に携わられましたスタッフの皆様には、心より感謝を申し上げます。

会期はたったの2日でも、実行委員会としては、ほぼ1年前から構想を練り、様々な準備を進めてまいりました。そんな舞台裏の話も織り交ぜながら、OTOTEN2018についてご報告をさせていただきます。



オープニングセレモニーでは、ご来賓の方々から祝辞をいただいた後、校條 会長より、会長職をバトンタッチされる小川 理子新会長（この時点では候補）が紹介され、歓迎ぶりを表わすかのような大量のフラッシュとシャッター音と共に、小川 理子さんがご登壇。公の場としては、初めて語られる小川さん自らの言葉に、会場の皆さんも静かに耳を傾けました。会長就任への思いや今後の日本オーディオ協会への期待、そして体験の場としての OTOTEN2018 を楽しんでいただきたいとの強いメッセージが印象的でした。



OTOTEN2018 は、東京国際フォーラムで開催するようになって 2 年目。実行委員会では、昨年の OTOTEN2017 をしっかりレビューし、ご来場の皆様に「コンテンツを楽しんでいただく展示会」を合言葉に、様々な工夫を凝らしました。その一つが B1 フロアです。日本レコード協会のご協力の元、LP レコードをフィーチャーして、ジャケットの展示や視聴体験コーナーを設置し、多くの来場者の注目を浴びました。



また、同じ B1 フロアの販促コーナーでは、協会監修「音のリファレンスシリーズ」の USB 音源と OTOTEN 会場で初お披露目された「井筒香奈江 Laidback2018」の 45 回転 180g 重量盤 LP レコードが販売され、関心が寄せられました。この「音のリファレンスシリーズ」の USB 音源は、先着 200 名の学生さんにプレゼントされたり、各メーカーブースにおける试听体験にも活用されました。



このように B1 フロアで興味が高まったお客様が、4 階・5 階・6 階へ上がっていただき、各メーカーブースの试听体験を存分に楽しんでいただけたことは、間違いのないと思います。

メーカーサイドもハードウェアの売り込みに留まらず、ハードウェアとコンテンツの融合を積極的に計られていたブースが数々見られたことが、OTOTEN2018 の特長だったと思います。アーティスト、評論家やエンジニアをゲストに招いて、トークショーが行われていましたし、「音のリファレンスシリーズ」に参加した演奏家たちも巡回されて、交流をさせていただきました。



さて、日本オーディオ協会が主催する OTOTEN に無くてはならないのが、セミナーの数々です。ここでも講師の皆さんにコンテンツを楽しむ観点のテーマを語っていただくようお願いさせていただきました。

AV 評論家の麻倉 怜士先生は、自らプロデュースした 情家 みえさんの「ETRENNE」という CD について、聴き処や楽曲への想いを語られました。そのお話を伺ってもう一度 CD を聞いたら、情感がさらにアップしてとても素晴らしい音に聞こえてくるのだから、これまた不思議なものであります。



日本音楽スタジオ協会セミナーの「録音を知らないでオーディオは語れない」では、会長で録音エンジニアの高田さんがお話をされたのですが、最初にサヌカイトという楽器を知り尽くすところから入ったと聞き、キメ細かな作業の上に、「音のリファレンスシリーズ」が出来上がったものの知り、ただただ感心するお話でした。



最後にもう一つだけご紹介しておきたいセミナーがありました。講師は「SAFE LISTENING」活動をされている須山 慶太さんです。須山補聴器を母体とし、FitEar ブランドで業務用カスタマイザーモニターやイヤホンの開発を行っておられる方ですが、難聴予防のための安全なイヤホンの使い方について語っていただきました。音圧と時間の関係 意識したいものです。



他にも、本放送開始まで半年に迫った NHK による 8K のパブリックビューイング、ハイレゾカーオーディオの展示などなど、まだまだ紹介しきれないものがいっぱいありますが、「コンテンツを楽しんでいただく」のコンセプトですべての展示や体験が有機的につながり、来場者による会場内の回遊もスムーズに行われたかと思います。たくさんのコンテンツをいい音で楽しんでもらえたなら、主催者としてこれ以上の幸せはありません。



■筆者

末永 信一（ソニー株式会社）

2014 年より、一般社団法人日本オーディオ協会・展示会実行委員会に参加

中島平太郎さんを偲ぶ会

NH ラボ株式会社

高田 寛太郎

1. はじめに

去る 6 月 25 日(月)、12:00 から 14:00 まで故中島平太郎さんを偲ぶ会が開かれた。場所はホテル雅叙園東京、2 階華つどの間。

日本オーディオ協会の校條 亮治前会長が中島平太郎さんを偲ぶ会を発案し、校條 亮治氏、森 芳久氏、倉持 誠一氏、君塚雅憲氏、筆者の 5 人で偲ぶ会準備のために初会合を持ったのは 2 月 27 日。その後、ソニー秘書部の高野 章氏が加わり、世話人 17 人を決め、具体案を企画した。開催は 6 月 25 日とし、案内状を 4 月 18 日付で発信した。

会は基本的に有志の集まりで、中島さんと交流のあった様々な方面の方々が参加されたが、日本オーディオ協会、NHK、日本音響学会、レコーディング業界、出版社、ソニー、太陽誘電、ビフレストック、三菱ケミカルなどの関係者が大半を占めた。

発起人は出井 伸之氏(元ソニー会長)を代表とする 12 名。世話人 17 名、事務局 1 名、受付 5 名、記念品・写真集デザイナー 1 名、装花デザイナー 1 名、カメラマン 1 名、VIP アテンダント 1 名、MC 2 名の総勢 41 名。それにゲストスピーカ 10 名および資料の提供や編集で数名の方のご協力を得た。(注 1)

冒頭から余談で恐縮だが、図 1 は会への参加申し込み者数の履歴を示す。4 月前半の受付開始から締め切りの 6 月 5 日までほぼ単調になめらかに増加し、目標の 150 名は締め切り数日前に到達し、さらに会の前日まで増加しつづけた。これは世話人の方々の着実な案内で情報が自然に広まっていったことと、案内を受けた方々があまり間を置かず



写真 1 中島平太郎さん

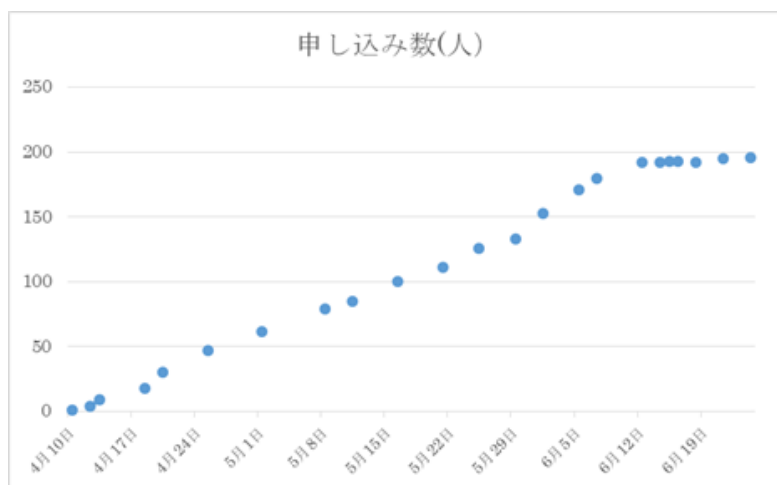


図 1 参加申し込み数の推移

に広まっていったことと、案内を受けた方々があまり間を置かず申し込みをされたことを意味していると思う。198 名の参加申し込みで当日欠席された方は 9 名。数多くのお別れ会を運営した経験者から、「このような会としての参加率は驚異的」と評された。

2. 式次第

進行プログラムを次に示す。偲ぶスピーチでは中島さんが JAS ジャーナルに連載された回顧録「音との付き合い 70 年」(注 2)の流れに沿って、関連した方々に思い出やエピソードを紹介していただいた。

オープニング (12:00~12:30)

- ・ 黙祷
- ・ 写真集の映写
- ・ 発起人代表挨拶 出井 伸之氏 元ソニー株式会社会長、クオンタムリープ株式会社 CEO
- ・ 発起人挨拶 校條 亮治氏 日本オーディオ協会前会長、現理事
小川 理子氏 日本オーディオ協会会長、パナソニック株式会社執行役員
- ・ 献杯 山崎 芳男氏 早稲田大学名誉教授

中島平太郎さんを偲ぶスピーチ (12:30~13:50)

- ・ 安藤 彰男氏 元 NHK 放送技術研究所、富山大学教授、日本音響学会会長
- ・ 穴澤 健明氏 元日本コロムビア株式会社取締役、ビットメディア株式会社顧問
- ・ 高山 岫氏 元ソニー株式会社技師長
- ・ 土井 利忠氏 元ソニー株式会社取締役・ソニーコンピュータサイエンス(株)社長
- ・ 水島 昌洋氏 元ソニー株式会社開発推進室
- ・ 西 美緒氏 元ソニー株式会社業務執行役員上席常務、西美緒技術研究所所長
- ・ 「スタート・ラボ創立 15 周年記念ビデオ」(抜粋) 紹介
- ・ 小川 博司氏 元ソニー株式会社主幹研究員、サルーステック株式会社社長
- ・ 浜田 恵美子氏 元太陽誘電株式会社、日本ガイシ株式会社取締役
- ・ 井深 亮氏 元ソニー PCL 専務、MI ラボ株式会社取締役
- ・ 茶谷 郁夫氏 元ソニー株式会社、NH ラボ株式会社取締役

クロージング (13:50~14:00)

- ・ ご遺族代表挨拶 中島 晃氏 NH ラボ株式会社代表取締役
- ・ 世話人代表挨拶 森 芳久氏 元ソニー株式会社

3. 会当日

受付は 11:20 開始。オーディオ協会照井 和彦氏ほか 5 名のソニー関係者が受付を担当。参加者の名前と会場の着座テーブルを記した名札が用意された。(作成 世話人滝瀬 忠氏)

入口の小さな祭壇。遺影とたまご形スピーカ、マイクロホン C-37A、そして装花。皆さん遺影にご挨拶して会場内に。



写真2 受付6人衆



写真3 入口の遺影、お花、ゆかりの品

会は立席方式ではなくテーブルに着座の形とした。そのため、予めの席決めは会進行の大切なファクターと考え、世話人の度重なる話し合いで決められた。10人掛けの丸テーブルが20台用意された(図2)。

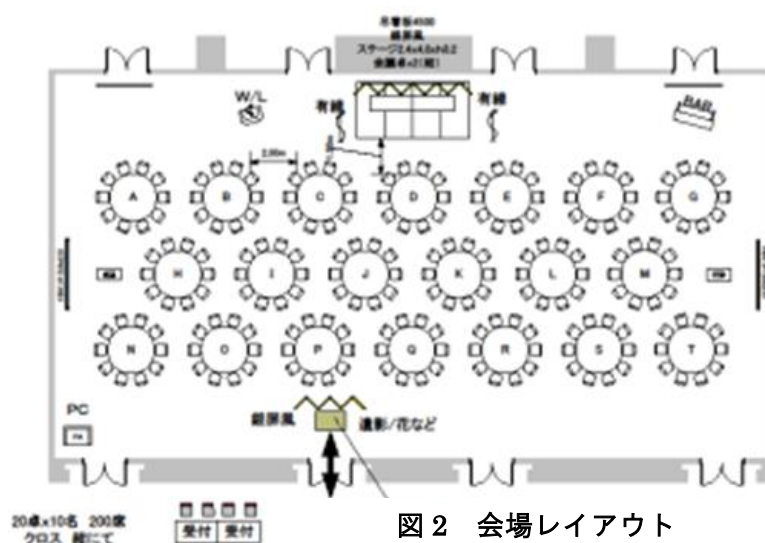


図2 会場レイアウト



写真4 華つどいの間

会場内正面中央に祭壇が設けられ、中島さんのご遺影と装花、そしてゆかりの品物（CDP-101、たまご形スピーカ NH-W1 ほか）が飾られた。



写真5 会場の祭壇と遺影



写真6 装花

二つの装花には CD ディスクも素材としてあしらわれた。（制作 前田 悠衣氏）

4. 式次

12:00。大久保 忠彦氏、風間 道子氏の司会で会が始まり、まず中島さんのご冥福を祈って黙祷が捧げられた。



写真7 司会者（大久保 忠彦氏、風間 道子氏）



写真8 黙祷

有志の提供による中島さんの写真をスライドショーにして大型スクリーンに投影した。同じものを記念品（注3）にも用意した。20代の若さみなぎる写真から晩年になってなお研究が続けられている姿まで、中島さんの人生の様々な場面が描かれている。（制作 田村 進一郎氏）



写真 9 写真集 タイトルページ



写真 10 写真集を見る参加者

4.1. オープニングスピーチ

◇ 発起人代表挨拶 出井 伸之氏

ソニーでオーディオ事業部長のころ中島さんが開発した CD をビジネスの中心に据え、その規格を元にどうやって魅力ある商品を作るか、大いに苦労した思い出を語る。昔のスピーカ SS-G7 でステレオを楽しんだ話や、クオラムリープの CEO になってからも中島さんの活動に興味を持ち、たまご形スピーカも購入した。しかし少し価格が高い、とちよっぴりご批判も。

同じくソニーの事業部長の時には電子楽器の商品化も企画し中島さんにも相談したが、残念ながら実現しなかった。



写真 11 出井 伸之氏

◇ 校條 亮治氏挨拶



写真 12 校條 亮治氏

昨年 12 月、中島さんご逝去後偲ぶ会をビフレステック(株)前社長 故井橋 孝夫氏とともに計画。しかし、井橋氏が年明け病気で突然倒れ、1 ヶ月以上の闘病の末帰らぬ人となった経緯を紹介し、今回の偲ぶ会への思い入れを熱く語った。また、校條氏を引き継いだ JAS の新会長小川 理子氏を紹介。

◇ 小川 理子氏挨拶

パナソニック(株)執行役員、アプライアンス社副社長、技術本部長、テクニクス事業推進室長を担当している。

学生時代は LP レコードを楽しむアナログ派だった。就職して最初の給料で普及しつつあった CD を購入した。

今回 JAS の会長に就任、協会の発展に寄与したい。



写真 13 小川 理子氏

4.2. 献杯

◇ 山崎 芳男氏によるスピーチと献杯のご発声



写真 14 山崎 芳男氏 スピーチと献杯

1960 年代後半、学生運動で大学のキャンパスが使用できず、修士課程の卒業研究は NHK 技研で行った。その時中島さんと出会った。卒研は音声合成の SN 比改善がテーマだったが短期間で目標を達成し、その後業務用 VTR を使った PCM 録音機の開発に加わり、世界で最初のレコーダを開発した。卒業後 NHK への就職も考えたが、落ち着いた大学での研究の道を選んだ。

中島さんは 1981 年～1983 年に音響学会の会長を務められたが、自分も同じ会長の仕事を 2003 年～2005 年に務めた。次世代オーディオプロジェクトの中で中島さんと超電導スピーカを研究し、20%程度の変換効率に達したが、実用化の夢は果たせなかった。



写真 15 食事風景

4.3. 中島さんを偲ぶスピーチ

回顧録に沿って思い出やエピソードをお話しいただいた。

◇ 安藤 彰男氏



写真 16 安藤 彰男氏

ソニーの C38 マイクロホン発売 38 周年記念式典に出席し、中島さんと一緒にソニー・太陽(株)を見学した。

NHK 技研の部長に就任した際には、「単なるマネージャーではなく、プレイングマネージャーになるよう」勧められ、大変参考になった。

日本音響学会ではオーディオに関する調査研究委員会を立ち上げた。中島さんの意思を継ぎ、学会におけるオーディオ関連の研究を促進したい。



写真 17 穴澤 健明氏

◇ 穴澤 健明氏

CD の発売が迫った時期 1981 年にもなると多くの社内外の方々より最初に世に出す CD に「新世界」をぜひ加えて欲しいとのご要望をいただいていた。「新世界」が新しいメディアにふさわしいとの考えから出てきた要望であったが、中島氏はこの曲がお好きであったようである。

この 1981 年には、チェコフィルの本拠でスメタナ弦楽四重奏団によるベートヴェンの弦楽四重奏団の全曲録音プロジェクトが行われていた。1947 年の結成時のメンバー一人であってチェコフ

イルの最高責任者も務めていたノイマンが録音会場に偶然現れ、第11番の「セリオース」に耳を傾けていた。また「新世界」かと新世界の演奏に飽きが来ていたノイマンはデジタル録音やCDの能書きを質問しつつ、「セリオース」は私の最も好きな曲だと言って「新世界」に取り組むようになったノイマンの表情がいまだに忘れられない。中島氏への恩返しにもなったと思っている。

◇ 高山 岫氏

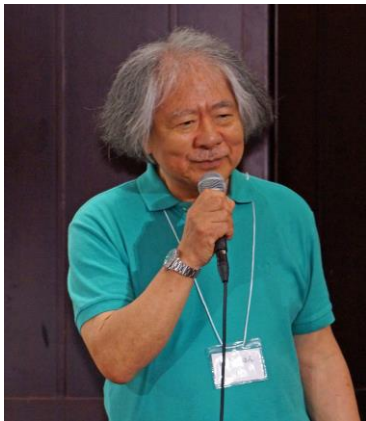


写真 18 高山 岫氏

中島さんは岸 源也先生と並ぶ恩師。設立直後の技研で約4年半薫陶を頂き固定ヘッド型レコーダの開発に携わった。市販の13ビットDACを用いて逐次比較型ADCを開発した。モニタの確保にDACのMSB電流・電圧の調整が、小信号時の歪改善にディザが不可欠だった。完成した試作機(2インチ幅14インチリール×2のデッキとラック1本の信号処理系)を日比谷公会堂に持ち込み松原緑さんのピアノ演奏を収録した。ドロップアウトによるノイズは1時間に数個だったと思う。’75夏に厚木移動となる際は「社長に手を回されたから」と中島さんに引導を渡された。厚木移動後は業務用ビデオ機器開発の傍ら、萩本 晴彦著「赤坂短信」にあやかり、「厚木短信」というレポートを発行していた。

◇ 土井 利忠氏



写真 19 土井 利忠氏

NHKから移ってこられた中島さんは、すぐに固定ヘッド方式のPCM録音機の試作を命じたが、これが社内で評判が悪く、「俺はPCMをやってNHKを首になったけど、今度はソニーも首になりそうだ」と嘆いておられた。そこで発表前のベータマックスの資料を取り寄せて検討をしているときに、伊賀 章がそれを見てPCM-1の開発を提案してきたのがすべての始まり。

所長室で酒を飲んだことや、「無条件の受容」で接する中島さんのマネジメントスタイルの暖かさや居心地の良さなどが懐かしい。その後「無条件の

受容」は、部下が創造力を発揮する源泉であることを発見した。いま天外塾という経営塾をやっているが、中島さんのマネジメントがベースの一つになっている。



写真 20 水島 昌洋氏

◇ 水島 昌洋氏

中島さんはデジタルオーディオディスクの標準化を進めるた

め、業界トップと相談し、1978年にはDAD懇談会を設立。

1979年3月下旬フィリップスはCDのプロトタイプを国内有力メーカーにデモしたが、反応したのはソニーのみ、これはトップの即断だった。他社はWait and See.

ソニーの申し入れでスタートした共同開発協議は、1979年8月から翌年6月まで、アイントホーヘンと東京で交互に都合6回開催された。中島さんはこの会議に、ソニーの代表として毎回出席。私も中島さんの補佐役として参加した。話し合いはほぼ順調に進んだが、1980年3月の最終段階で、変調方式で2社の技術者が鋭く対立し、話し合いは膠着状態になった。

中島さんは、フィリップスからの技術者抜きの話合いの申し入れを受け入れ、フィリップスの提案の一部採用を決断され、両社は最終的に合意でき、1980年6月にDAD懇談会に共同提案することができた。

◇ 西 美緒氏



写真 21 西 美緒氏

中島さんは“音”に関しては全く素人の私に徹底的にご教示下さいましたが、もう一つ、健康長寿のコツを、ご自身の実践を通してご伝授頂きました。それは適度の酒と運動です。私はその教えを金科玉条として、運動は毎日ウォーキングをやっていますし、酒も度を過ぎさぬよう、一週間に七日を限度としています。この二つを守って、私も長寿を全うしたいと思っています。

◇ 小川 博司氏

CD本体の開発が終わり、MO（光磁気ディスク）の開発



写真 22 小川 博司氏

を始めていたある日、一時、アイワに移られていた中島さんから連絡があり、中島さんの部屋でお会いしたのが、太陽誘電の石黒 隆さんと浜田 恵美子さん。そこでCD-Rの原型となる試作ディスクを始めて見た。中島さんは、すでに発売しているCDプレーヤーで再生でき、かつ記録できるディスクに執念を燃やされており、それから、本当の互換を達成するまでは大変だった。チームを組んだソニーと太陽誘電のエンジニアの人たちのハードワークはもちろんだが、パイオニア、Sonic Solutionsの協力が得られなければ、商品レベルには達しなかった。

◇ 浜田 恵美子氏



写真 23 浜田 恵美子氏

CD-R は、中島さんならではのアドバイスにより「完全互換」にターゲットを絞って太陽誘電で開発したもの。著作権では苦勞もしたが、その交渉からスタート・ラボを通じた事業化もすべて引き受けてくださった。狙いに妥協はしないが、実現力もすばらしい方でした。



写真 24 井深 亮氏

◇ 井深 亮氏

エムアイラボで中島様夫妻、仁田夫妻、高島さんそして私と妻とで年一回北海道から九州の各地に旅行した。また、中島さんが NHK 技研からソニーへ転職されたいきさつの、野田岩のウナギで接待され最終的にソニー行きとなった話も紹介した。父 井深 大の求める気持と中島さんの情熱がソニーですばらしい成果をなし遂げたと思う。

◇ 茶谷 郁夫氏



写真 25 茶谷 郁夫氏

「スピーカキャビネットの鳴きの少ない物を作れないか」、との中島さんの投げかけに始まり、軽くて丈夫なものとしてたまご形状にたどり着き、黄金分割比 1 対 0.618 を使って、形的にも音響的にも素敵で意味のあるものに仕上げる事ができた。さらに、中島さんの“フルレンジで”の一言で振動板にも工夫を凝らしシンプルで音の良いスピーカを作ることができた。しかしここで手綱は緩まず、次々に課題を投げかけられた。

4.4. クロージング

◇ ご遺族の挨拶 中島 晃氏



写真 26 中島 晃氏（ご長男）

父 平太郎は長い間母のリードで体づくりに励んでいた。駒沢公園のジョギングも若いころから母と一緒に続けていた。高齢となり足腰が弱ってくるとウォーキングに切り替えて毎日駒沢公園を歩いていた。

2017年6月の転倒骨折で入院したあと治ろうとする気力がすごかった。病院に早期退院を迫り、医師も驚いていた。退院後はリハビリに励み、駒沢公園の散歩も復活した。

亡くなる直前まで普通に生活していたが、12月8日の昼前に歩行中、手を添えていた自分の腕の中で突然意識を失って崩れ落ち、救急入院したが翌日帰らぬ人となった。

◇ 父のご挨拶 森 芳久氏

「オーディオの語源はラテン語 *L. audire*、『聴く』。みなさん私の話を聞きなさい！」と始めたところ、それまでの会場のざわめきがぴたりと収まった。

品川無線からNHK技研に出向しカートリッジの研究開発で大変お世話になり、若い自分が生意気なことを言っても、中島さんは自分を遠ざけることはせず、常に声をかけてくださった。その後縁あってソニーに入社する時、髪の毛を切らないという条件で入社したが、その時もソニー社内の調整に暖かい心遣いをいただいた。中島学校の弟子を自認していたが、破門されてはまた弟子になることを繰り返した。中島さんがアイワに移られた後は、「あいはい こわれやすく」と言ってまた破門された。

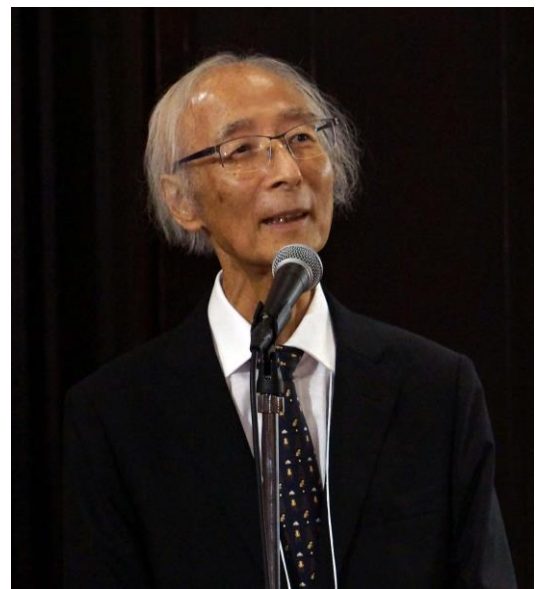


写真 27 森 芳久氏

5. 参加者の声

後日メールでいただいた参加者のコメントを紹介する。

◇ RK さん

中島平太郎さんの偉大さを改めて知らされた会に参加出来てとても良かった。

合計 10 年程スタート・ラボで平太郎さんの近くで仕事をしたが、知らなかったことがとても多いことを再認識した。

◇ HK さん

中島さんのかつての姿(写真ビデオ)はいつ見ても感動する。出席者の顔ぶれからも中島さんが音響のデジタル化の幕開けのエースとして不動の人であることを参加者は再認識できたと思う。

音響再生技術は HiFi システムにとどまらず、イヤホン、小型オーディオ機器そしてマイクまで開発をされ続けたことに畏敬の念を覚える。

さらに音響開発と経営感覚のバランスを確実にお持ちだったことにも驚く。

みなさんのスピーチから誰もが中島さんの生徒だと思っているし、そう思いたいことがよく分かる。自分も中島さんのもとで仕事ができたことは無上の喜び。

◇ HH さん

出井氏は創業者時代のソニーから非創業者時代のソニーへと、大きく変化していく移行期に社長・会長職を勤められた方であったと認識している。そのような方が偲ぶ会の世話人をされているというのが意外で新鮮だった。中島さんが牽引された CD 開発という偉業が、後のソニーにとって極めて重要な事業として認識されていたと痛感した。

◇ TI さん

良い偲ぶ会でしたが、スピーチ時にざわついていていた事もあり、全体に良く聞き取れなかった。高山さん、土井さんのスピーチ、特に残業時間での飲酒の件は平太郎さんらしい或いはソニーらしい(?)カルチャーとして印象に残っている。飲酒状態で会社に入っては規定違反だが、中で飲む分には規定されていないと言う屁理屈に自由闊達な研究開発の場があったと想像できるし、それがデジタルオーディオの開発成就に貢献したと思う。

息子さんのスピーチは亡くなられる前日の状況を淡々と説明され、平太郎さんがまさに天寿を全うされた様子が伺える内容で印象的だった。

◇ HN さん

太陽誘電の CD-R は中島さんの仕事としても、CD メディアの世界市場へ与えた影響としてもとても大きかったので、今回浜田 恵美子さんの CD-R についてのスピーチは大変興味深く聞いた。20 年ほど前に、CD-R に関するイベントの浜田恵美子さんの講演を聴いたことがある。自分は太陽誘電の有機色素 CD-R が開発される前は、反射率の低いディスクを仕事に使っており、読取用 CD-ROM ドライブの回路調整や改造が必要だったが、CD コンパチの CD-R が使えるよう

になり助かった。

☆ TM さん

驚くほど多くの人に参加され、改めて中島さんの人脈の広さと、人望の厚さを確認した。

どのスピーチも心がこもって聞き入るものばかりで、特に NHK 技研時代の逸話は印象に残った。職業柄会場の PA 音声の明瞭度が気になったが、雅叙園の料理はなかなかのものだった。

☆ KI さん

「音の好きな連中がこれを機会に集まり旧交を温めて頂ければ嬉しいです」と壇上の写真から微笑んでおられたような、中島さんらしい素敵な会だった。

スピーチから、中島さんは誰にも分け隔て無く様々な状況でも直球で接してこられたことを知り、改めてその心の深さに触れることができた。

☆ ST さん

中島さんの計り知れない知恵に支えられたオーディオの世界に、参列されたソニーOBの方々、そしてその知恵のお世話になった方々の楽しかった思い出話の数々、その中でも森芳久さまスピーチには中島さんのご指導やご活躍の全てが入っていると思った。

☆ KK さん

会場入口と会場正面の写真のセッティング、そして CD 型のコンテンツ案内が、中島さんらしくてセンス良いなと嬉しかった。

スピーチは、中島 晃氏からのご最期の様子や森芳久氏のお話がうるっと来るくらい心に残った。「野田岩の鰻、ごちそうになっちゃったから」と、憧れの店名が出たのにも感激。

☆ KO さん

何年ぶり、何十年ぶりに会った人たちと話しがはずんでしまい、スピーチを全然聞いていないというのが実態。中島さんがいろいろの方に合わせてくれたと感謝。テーブルでの着席者の割り当てなど細やかな考慮に担当された方々の苦勞がしのばれる。

☆ TS さん

NHK 時代からの信条、良いアイデアは酒の席で発案される。お酒とは縁の切れない中島さんだったことを思い返す。上司からの業務命令をこなしつつ、自分のやりたい研究を進める、それが開発の基礎になっている。中島さんと関わった人達に将来に向けての開発を前向きに考える事が責務になるように上手く誘導した。

☆ SY さん

とても良い偲ぶ会だった。お茶目で、まじめで、明るくて、率直な平太郎さんの人柄が彷彿する。スピーチをした人も皆平太郎さんが好きだったことがよく分かる。

ソニーだけでなく、オーディオ協会やNHK技研ほかからの参加者がいてよかった。同席したJHさんも昔のソニーが感じられてよかったと感激していた。

✧ KEさん

とても良い会だった。オーディオの今を作ったソニーの多くの懐かしいレジェンド達に再開出来たのは、中島さんのお導きだと思う。最初の上司土井氏と、森氏のスピーチが印象的だった。

✧ KTさん

先輩たちの同窓会のような感じで、中島さんもきっと喜ばれておられると思う。

中島さんがどなたにも平等に接し、かつ率直に議論するエンジニア魂を根幹に持たれていることは、我々エンジニアには何より勇気づけられることだった。会全体の雰囲気はたいへん和やかで良かったが、スピーチの多くが話声であり聞きえなかったことが残念だった。

✧ MYさん

会場入り口と会場中央に飾られた中島平太郎さんの笑顔が素敵な写真が特に印象に残った。

みなさん、中島さんとの逸話やオーディオの話になると目を輝かせてとても楽しそうに歓談されていた。各テーブル内でも新たな親交を深めるシーンや知り合いを探してほかのテーブルを回る方も多くいて、中島さんを通じた人の繋がりをとても感じた。

✧ TKさん

昨年12月のプロマイクの仕事で出張した北京で訃報を知った。

ソニーグループやサウンド業界のイベントでは同席されないようなOBの方々が、平太郎さんの名の下であれば一堂に会される、ということが今回の偲ぶ会で良く分った。日本のオーディオ界のゴッドファーザーに思えた。

会場には、入社のかきかけとなった学生時代の商品コンペ審査員の森氏を初め、これまでの自分の仕事で関係した重要な方々が勢ぞろいされていた。

中島さんから直接の薫陶を受けることはなかったが、諸先輩方を通じて間接的に中島さんのご指導を受けたと思っており、中島さんが切り開かれたプロマイクの仕事に今従事していることが感慨深い。

✧ SFさん

大変な数の参列者でびっくりした。200人とか聞いたが本当か？

NHKの方もかなり参加されていて、これも中島さんのお仕事、人徳によるもの。太陽誘電の方も何人かいらした。CD開発の初期メンバーの全部に会うことができた。

スピーチは最初の3-4人は聞きえたが、その後は皆の雑談で聞きえなくなり、最後の数名がまた聞きえだしたという感じだった。あの声の通る土井氏ですら時々しか聞きえなかった。

特に印象に残ったのは中島 晃ご長男の話で、「やはり最後はそうだったのか」と思った。

◇ SM さん

出席者の多さと錚々たる顔ぶれに驚いた。特に中島 晃氏のお話は印象に残った。中島平太郎さんが骨折された後も、意欲的にリハビリに努めて最後まで現役復帰に前向きにチャレンジされていたことに、大変感銘を受けた。

◇ TI さん

デジタルオーディオのはじまりの物語、様々な技術者が「オーディオの入口から出口まで全部やる」との宣言の基に集結し、切磋琢磨していったお話しは今聞いても新鮮さを失っていない。全ての方々の力を集結する秘密を垣間見た気がした。

スピーチにあった、CD の真の開発功労者は誰か？という天外伺朗さんのテーブルでのお話しの結論を聞いてみたい。

技術のこれからの方向性として、健康と幸福につながる世界観を見いだしたいと願っている。オーディオ協会は、当時の瑞々しい技術開発の世界を、若い世代の方々に広く伝えていかれることを希望します。

6. 終りに

ご多忙中準備に奔走された世話人や係の方々、心暖まるスピーチをされた方々、資料の提供や編集作業を応援していただいた方々、全国各地から会へ参加された方々、後日貴重なコメントをいただいた方々、皆様の中島平太郎さんへの思いが一つに結集した偲ぶ会となりました。このような機会に恵まれたことを中島平太郎さんに感謝し、改めてご冥福をお祈り致します。

(注 1) (敬称、所属略)

- ・ 発起人： 出井 伸之(代表)、井深 亮、氏原 淳一、卯木 肇、河野 文男、鶴島 克明、土井 利忠、盛田 正明、盛田 昌夫、校條 亮治、山崎 芳男、山本 喜則
- ・ 世話人： 高田 寛太郎(代表)、大久保 洋幸、小川 博司、小高 健太郎、川崎 博愛、君塚 雅憲、倉持 誠一、高島 充、高野 章、滝瀬 忠、田村 新吾、茶谷 郁夫、花島 満、広江 哲也、細尾 満、村上 佳裕、森 芳久
- ・ 事務局： 照井 和彦
- ・ 受付： 浅田 宏平、小室 弘行、今野 太郎、末永 信一、西尾 文孝、
- ・ 司会： 大久保 忠彦、風間 道子
- ・ カメラ： 平原 喜孝
- ・ 記念品・写真集デザイン： 田村 進一郎
- ・ 装花： 前田 悠衣
- ・ VIP アテンダント： 塚部 香
- ・ 写真・ビデオ提供： ビフレストック(株) (スタート・ラボ)、佐伯 多門、河野 豊
- ・ ビデオ編集： 江頭 康雄

- ・ 回顧録提供：日本オーディオ協会
- ・ 随筆提供：オーム社
- ・ 記念品講演録音の編集：田中 三一

(注2)

- ・ 「音との付き合い70年(その1) NHKに入るまで」、JAS ジャーナル 2016年9月
- ・ 「音との付き合い70年(その2) NHK時代」、JAS ジャーナル 2016年11月
- ・ 「音との付き合い70年(その3) ソニー時代」、JAS ジャーナル 2017年1月
- ・ 「音との付き合い70年(その4) アイワ時代」、JAS ジャーナル 2017年3月
- ・ 「音との付き合い70年(その5) スタート・ラボ時代」、JAS ジャーナル 2017年5月
- ・ 「音との付き合い70年(その6) ベンチャー時代」、JAS ジャーナル 2017年11月

(注3) 記念品 CDをデザインした目録

- ・ 中島さんに関する資料をNHラボのホームページにアップし、そこからダウンロードして活用していただく方法で記念品を提供した。

目録

1. 写真集
2. 録音「中島平太郎さん CDRについて語る」
3. 「音を楽しむ」福岡県立明善高校創立125周年記念講演会資料
4. 随筆「他山に登る」、「音のゆらぎ」、「麻の中の蓬」、「ここにも黄金比」
5. 回顧録「親爺さんの背中を追って」
6. 回顧録「音との付き合い70年①～⑥」
7. NHラボセミナー講演より抜粋



Qualcomm スマートオーディオプラットフォームの紹介

クアルコム CDMA テクノロジーズ

大島 勉

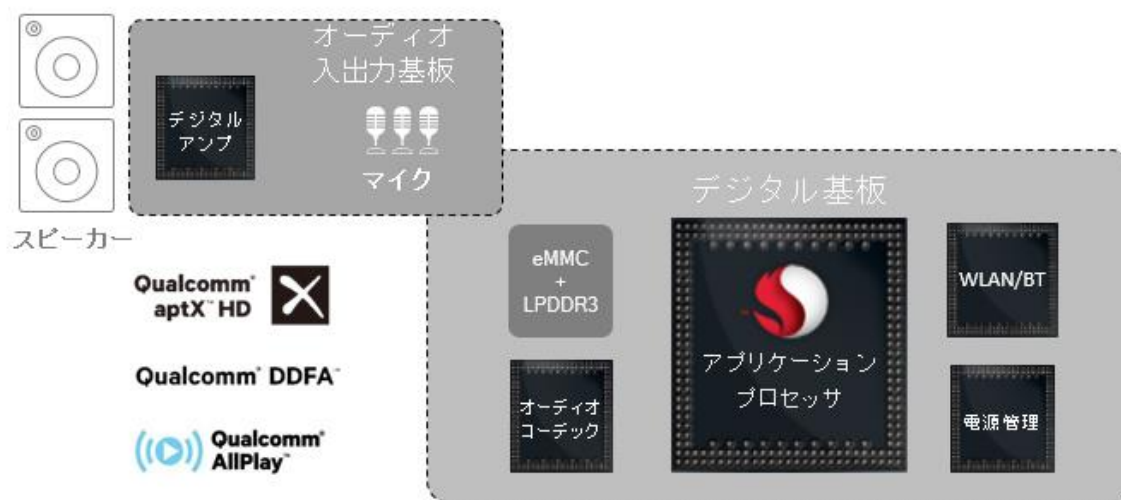
■はじめに

近年のスマートフォンの普及拡大とスマートフォンを活用した試聴環境の普及の拡大が、オーディオ製品の趨勢に大きな影響を与えている。市場ダイナミクスの観点からも、オーディオ製品の市場は大きな変化を遂げており、テクノロジープロバイダーにとってビジネスチャンスとなっている。音楽業界がオンラインストリーミングに移行したことで、若年層を中心に音楽コンテンツの楽しみ方が変わっており、米国では昨年音楽コンテンツの50%以上がクラウドからストリーミングされているという市場調査の報道もある。またスマートフォンやタブレットと連携されるBluetooth スピーカーや Wi-Fi スピーカー製品の音質への要求も高くなり、昨今のハイレゾオーディオへの関心もあり、様々な高音質フォーマットへの対応は必須とされている。

音声認識に対応したオーディオ製品の登場は、今後の成長が期待されるトレンドである。2017年も、音声認識対応のスマートスピーカー製品が導入された。これはオーディオ製品という枠組みを超えて、幅広い市場・製品カテゴリーに拡大することが期待される。IoT 関連デバイスとの連携やスマートホームのコントロールハブとしての役割など Amazon, Google といったエコシステムを構築しているベンダーによる新たなビジネスモデルの導入により、オーディオ市場に変化をもたらせ、音声認識技術と従来のオーディオ製品向けのデバイスの機能融合に対して推進力をもたらしているのは事実である。



このように魅力的な市場機会に対し、オリジナリティを持つ製品化を目指す各メーカーは、エンドユーザーにとって魅力的な仕様を実現するために、デバイスレベルでの高機能化の実現が要求されている実状がある。当社のスマートオーディオプラットフォームは、アプリケーションプロセッサ、ワイヤレス・コネクティビティ、マイクロフォンの構成、電源管理デバイス、オーディオ出力・ソフトウェアなど製品構築上の基幹部品を自社のデバイスで構築することができ、仕様の実現をスムーズに対応できる柔軟なハードウェア構成とソフトウェアの安定性が担保された統合プラットフォームになっている。



■スマートスピーカーの技術要素

一般的にマルチルーム・オーディオストリーミングを行う上でのシグナルチェーンとしては、以下 1-4 で構成される。

1. 無線・コネクティビティ
2. アプリケーションプロセッサ
3. ネットワークオーディオ用ソフトウェアフレームワーク
4. オーディオ出力

これに音声認識技術が加わると、

5. マイクロフォン入力
6. エコー抑制・ノイズキャンセル技術
7. 自動音声認識アルゴリズム
8. 自然言語認識アルゴリズム
9. 音声合成アルゴリズム

が必要になる。

6～9に関しては、アプリケーションプロセッサがクラウド上で動作することが要求されるため、十分な処理能力を持ち、かつ、様々なサードパーティー製のクラウドやアルゴリズムとの連携に対応するための堅固なネットワーク環境は勿論のこと、柔軟なソフトウェア・アーキテクチャーとセキュリティ性が担保されているシステムが必要になる。

■アプリケーションプロセッサとソフトウェア技術

当社のアプリケーションプロセッサ APQ8009 や APQ8017 は ARM クアッドコア CPU と、自社設計の GPU や DSP を搭載しており、音声言語認識やオーディオストリーミング再生で使われるマルチスレッドのプロセスを余裕を持って処理することが可能である。当社オリジナルのトリガーキーワード認識用のソフトウェア “Snapdragon Voice Activation” や、製品から距離の離れたところでの音声言語認識を実現するための騒音除去や反響を抑制し、話者からの出音をフォーカスしたり製品との相対的なユーザーの位置を特定することができるサウンドトラッキング技術やビームフォーミング技術を融合させたソフトウェア “Fluence IOT” も低消費電力で動作可能な DSP 上で動作させている。スマートフォンやタブレット製品で先行して技術投入された上記の音声処理に関するソフトウェア資産がスマートスピーカー製品向けに応用されている為、既にその品質は市場実績のあるソリューションであるといえ、音声セキュリティの面でも、スマートフォン資産が活用され、堅固なシステム構成を可能とすることを担保している。

また最大 1280 x 800 ピクセルの解像度、1 秒当たり 60 フレームまでサポートするディスプレイインターフェースが実装されており、音楽コンテンツのカバーアート表示やデバイスの設定やユーザーインターフェース、緊急通知用表示としても使用可能である。最大 1080P H.264 AVC や H.265 HEVC のビデオ再生機能も可能であり、8M ピクセルカメラとの接続も可能なインターフェースが実装されており、音声認識によって得られた情報をもとにカメラやグラフィックスを用いて、今までのオーディオ製品とは異なるユースケースに発展させることも可能である。

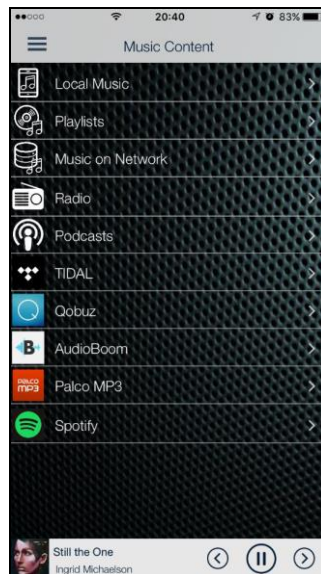
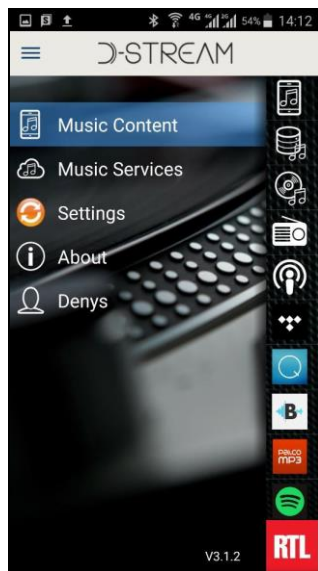
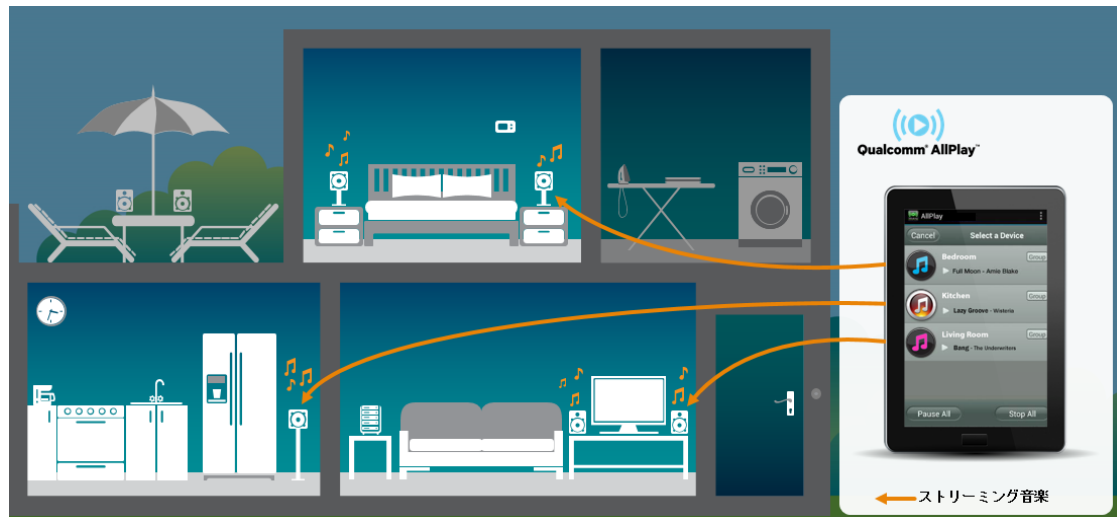
オペレーションシステムはリナックス、アンドロイド両方に対応しており、メーカーや、サードパーティがアプリケーション開発する上でも既存の資産を活用し易い環境になっている。今後も、スマートフォン製品で実績のあるセンサー技術や生体認証技術が、スマートオーディオプラットフォームにインテグレーションされることが計画されており、ファームウェア・アップデートをすることで、新機能への対応が可能になる為、メーカーにとってもメリットのあるプラットフォームになると考える。

■コネクティビティと音声コーデック技術

WLAN や Bluetooth といった技術を実現するための無線・コネクティビティデバイスは、802.11 a/b/g/n/ac (2x2 2.4GHz, 5GHz デュアルバンド)、Bluetooth 4.2, Bluetooth Low Energy 対応のデバイスをスマートオーディオプラットフォームでは実装している。

オーディオ製品市場において多数採用例があり、非常に高い市場シェアを持っている。この市場には参入企業も多いのが事実であるが、当社の市場実績のある堅牢なソフトウェアスタックが、無線でオーディオを楽しむ際の重要なポイントとなっており、この上で独自 Bluetooth 音声コーデック技術 “aptX HD” は 48kHz 24bit ハイレゾ相当（当社提案）の高音質コーデックとして市場の注目を受けている。特徴としては、人間に聞こえないと思われる周波数帯域成分を端折ってしまう聴覚心理モデルを使わないオーディオ圧縮技術であり、音声品質の劣化や遅延の問題を発生させることなく、Bluetooth 音声伝送に適した独自のアルゴリズムを採用している。SNR（信号と雑音比）は 129dB を達成しており、独自のパケットエラー補正アルゴリズムも採用している。これらの技術によって、これまでの Bluetooth によるオーディオ試聴において音質が格段に向上

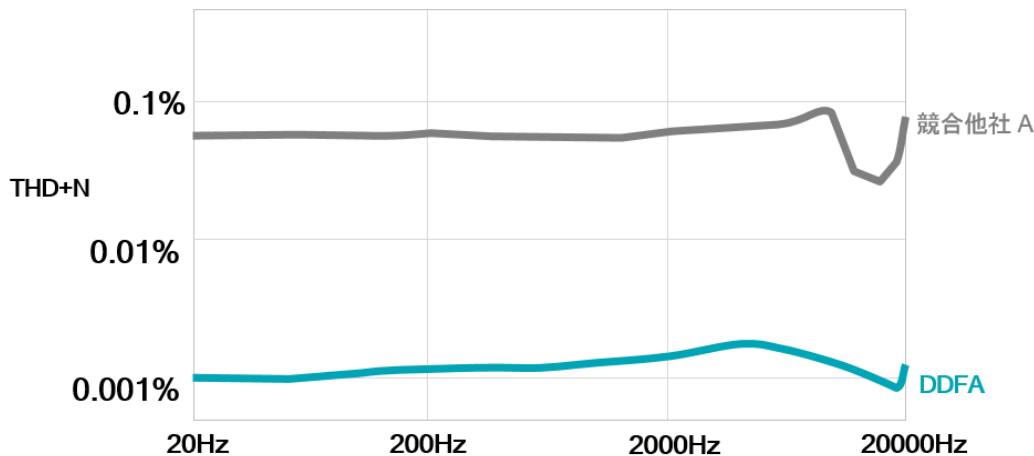
し、スマートフォン、ヘッドセット、音響製品で採用例が増えている。また 192kHz 32bit までのハイレゾ規格に対応したマルチルーム・非圧縮オーディオ技術の“AllPlay”であるが、各 AllPlay 準拠の製品が同じ Wi-Fi ルーターに接続していれば、異なるメーカーの製品でも接続でき、各部屋で別々の音楽コンテンツを楽しむことは勿論、全ての部屋で同じ音楽を低遅延でシンク可能なパーティーモードも実装されている。スマートフォンの専用アプリケーションで、スマートフォン、NAS、DLNA ストレージなどに格納されている音楽コンテンツやクラウド音楽配信コンテンツやネットワークラジオといったコンテンツ再生を自在にコントロールすることが可能である。



■オーディオ出力

小型で高出力、90%の電力効率が得られるなど、デジタルアンプのアーキテクチャーがもたらす利点は、広く知られているが、デジタルアンプが採用されている多くのオーディオ製品にて、電力効率の良さのみが注目され、音質は二の次にされている現状があることも事実である。当社には“Qualcomm Aqstic”の高音質オーディオ入出力段コーデックデバイスの WCD シリーズ、低消費電力でも高音質でパワフルな出力とスピーカー保護が可能なスマートアンプ WSA シリー

ズやデジタル入力型高音質デジタルアンプ“DDFA” CSRA6620 がある。これらの製品は、独自のデジタル領域で行われるフィードバック処理と 384kHz/32bit PCM, 5.6MHz DSD フォーマットまで対応した入力インターフェースを持っており、なおかつ低ジッター処理や、独自の補間フィルター処理、ノイズシェイパー処理に関しては、ハイレゾフォーマットにも対応した高音質を追及した設計となっている。従って、音の解像度に反映される指標として使われる THD+N（全高調波＋雑音）値は、一般的なオーディオ製品で使用するデジタルアンプデバイスと比較し、非常に小さく、ハイエンドオーディオでの領域に達している。



■むすびに

急速に立ち上がりを見せる IoT 製品市場を牽引する技術のひとつである音声認識技術とオーディオ製品の融合の形を紹介した。スマートフォン市場やコンシューマーオーディオ製品市場で培われた強力なハードウェア、ソフトウェア技術資産の融合とも言えるプラットフォームである。時代とともに音楽や映像コンテンツの楽しみ方も多様化しているが、メーカーがエンドユーザーから共感を得られる画期的な製品の開発を可能にするプラットフォームを当社は提案していく。

最後にクアルコムの今後の動向に興味を持って頂けたら幸いである。

■筆者略歴



大島 勉（おおしま つとむ）

クアルコムにて製品マーケティングを担当

日本オーディオ協会会員 Audio Engineering Society 会員
日本オーディオ協会認定・デジタルホームシアター・スペシャリスト 1999 年から 19 年間、外資系半導体メーカーにてソフトウェア開発・技術サポート・製品マーケティングに従事。

JAS Information

平成30年度 第2回(6月)理事会 報告

平成30年度 通常総会 報告(平成30年6月22日開催)

平成30年度 通常総会 報告

平成30年6月22日(金)13時30分よりAP品川アネックス会議室において、正会員350名中245名(委任状提出会員を含む)のご出席のもと、平成30年一般社団法人日本オーディオ協会通常総会が開催されました。次の4議案が提出されましたがすべて承認されました。

1. 決議事項一：平成29年度事業報告収支決算報告並びに監事監査の承認を求める件

平成29年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の事業報告書および、平成29年度決算報告書について事務局が説明したのち、相澤宏紀監事から監事を代表して監査報告書により監査結果が報告されました。その後採決を取り賛成多数で承認されました。

2. 決議事項二：平成30年度事業計画並びに収支予算案の件

議長から平成30年度(平成30年4月1日から平成31年3月31日)の事業計画書、組織案が説明されて、続いて事務局から平成30年度の収支予算について説明されました。

定款上、事業計画は総会決議事項には含まれませんが会員の方々の理解を深めていただくために説明され、了解されました。

3. 決議案件：定款変更の件

議長が資料に基づき理事定数の変更を含む定款改定案を説明し、全員一致をもって承認されました。

その結果定款23条役員の配置(1)は「理事20

名以上25名以内」ととなりました。

4. 決議案件：役員選任の件

定款の規定によりこの総会で理事全員と監事全員が任期満了となるため、後任者の選定について役員推薦委員会の齋藤重正委員長を代行して相澤宏紀委員から役員選任に関連して報告がありました。

提案された役員改選候補者は理事22名、監事2名で、定款第23条に定められた役員定員内であり、このあと参加正会員による信任投票によって候補者全員が承認されました。

重任、新任、退任役員は次の通りです。

理事 大久保 洋幸

理事 小川 功一

理事 小川 理子

理事 金子 由和

理事 岸原 孝昌

理事 君塚 雅憲

理事 小嶋 康

理事 猿谷 徹

理事 鈴木 雅臣

理事 中川 圭史

理事 畑 陽一郎

理事 松岡 文啓

理事 校條 亮治

監事 相澤 宏紀

(以上重任理事13名、重任監事1名)

理事 飯森 幸利

理事 片山 修

理事 加藤 徹也

理事 小塚 雅之

理事 小谷野 進司

理事 佐藤 誠

理事 林 和喜

理事 森 美裕

監事 田中 晋

(以上新任理事8名、新任監事1名)

理事 遠藤 真

理事 大島 洋

理事 長田 俊彦

理事 蒲生 宣親

(以上退任理事4名)

このほか任期中の常勤役員の報酬等が提案され、
全員一致をもって承認されました。

平成30年度 第2回 理事会 議事

総会に続いて、平成30年度第2回 理事会が理事19名と監事1名の出席のもとで開催されました。

1. 第1号議案：会長、副会長、専務理事選任の件
総会で選任された役員の互選によって全員一致で可決決定され被選定者も席上で就任を承諾しました。

会長 小川 理子

副会長 飯森 幸利

副会長 小川 功一

副会長 猿谷 徹

専務理事 森 美裕

特別顧問 校條 亮治

2. 第2号議案：平成30年度諮問委員の承認（重任、退任）を求める件
議長より平成30年度の諮問委員が説明され、申請通りに承認されました。

穴沢 健明

石井 伸一郎

市川 俊一

内沼 映二

岡本 幹彦

倉持 誠一

鴻池 賢三

齋藤 重正

沢口 真生

鈴木 弘明

高松 重治

橘 秀樹

千葉 精一

豊島 政實

西 国晴

西川 和男

松下 和雄

松田 賢一

宮坂 榮一

森 芳久

山崎 芳男

柚賀 哲夫

(以上重任諮問委員 22名)

小谷野 進司

武田 正美

(以上退任諮問委員 2名)

3. 第3号議案：新会員の承認を求める件

5月理事会以降6月21日までの間に日本電信電話株式会社、および、個人3名の入会申請が報告され、原案通り承認されました。

4. 第4号議案：平成32年度展示会の件

平成32年度開催展示会の会場確保（東京国際フォーラム）について報告され承認されました。

これによって平成31年（2019年）、平成32年（2020年）と引き続き有楽町で大型展示会を企画実施することが内定しました。